

會務報告

第25卷第10號 昭和14年10月

役員會

第12回理事會(昭.14.9.4.)

出席者: 八田會長, 谷口副會長, 山崎, 高橋, 和田, 稻葉各理事, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任, 糸川編輯主任

報告

1. 中部支部第3回役員會議事
2. 關西支部第6回役員會議事
3. 西部支部幹事変更
4. 北海道支部役員変更
5. 日本工學會評議員會議事

議事

1. 北海道支部長改選の結果神保金衛君當選せられたるに就き之を依嘱することとせり。
2. 南洋廳熱帯産業研究所に對し會誌その他圖書を寄贈することとせり。
3. 第4回日本工學會大會講演土木部會に關しては委員會を設置して準備工作を爲すこととし委員長に山崎匡輔君を依嘱することとせり。
4. 25周年記念大會次第書を別紙(省略)の通り決定せり。
5. 8月中入退會の件別紙の通り承認せり。

以上の外滿蒙支開發展覽會土木關係出品の件及本會事務所移転方要請の件等に就き協議せり。

編輯部記事

第9回會誌編輯委員會(昭.14.9.6.)

出席者: 廣瀬委員長, 太田尾, 黒澤, 佐藤, 本間, 松村, 安宅各委員, 糸川編輯主任

協議事項

1. 會誌第25卷第9號所載原稿附記を決定せり。
2. 會誌第25卷第9號所載論說報告に對する討議依頼先を決定せり。
3. 會誌第25卷第11號登載記事を下記の如く決定せり。

論說報告: 國有鐵道の踏切現況と踏切關係事故其他に就て(會, 藤原孝一), コンクリートの圧縮強さと施工季節及養生法との關係(會, 上野正夫), 水路式水力地點の優劣比較基準に就て(會, 有坂誠喜)。

彙報: 參宮急行電鉄軌間改築工事概要(會, 鈴木角一郎), 天王寺驛改良工事に就て(准, 福森宇三郎)。

抄録: 古典土圧論の一問題, 惰性率一樣ならざる構構の解法に對する一考察, 斜橋に應用せる桁及ラーメンの垂直荷重に依る振り応力の算定, 寫眞縮尺と地図縮尺, 杭打用鉸導管裝置, 洪水區域内に築造された地下道, Idaho州に於けるレイリッグ道床, California州に於ける交通安全施設, 自転車國道一和蘭, 洗堀に對する安全な橋梁の基礎根入, アーチに及す風圧と氣温の影響, 靜定構桁橋の影響線解法に就て, 無鉸補剛樑拱橋の計算法, Havana-New Orleans 間車輪輸送。

4. 第25卷第10號彙報欄に「中央線豊田淺川間」線路増設工事概要(准, 松下秀樹)を追加記載することとせり。

北海道支部記事

役員の移動

商議員	新任	退任
	齋藤 靜修君	神保 金衛君
	杉 森 文彦君	別所 武光君
	平尾 俊雄君	菅 良二君
	野村 多津雄君	渡邊 榮五郎君
	鷹部 屋福平君	井口 鹿象君
幹事長	大坪喜久太郎君	鷹部 屋福平君
幹事	板倉 忠三君	酒井 忠明君
	瀬田 一雄君	大坪喜久太郎君

その他記事

○昭和14年9月1日土木學會誌第25卷第9號を發行成規の手續を了し全會員に配布せり。

入 會 及 転 格 會 員

會 員 (入 會)

加藤 穂君 滿洲國交通部海拉爾土木建設處
 杉 廣三郎君 華北交通會社
 津留新助君 鹿兒島縣土木港修築事務所

林 盛一郎君 林索道工業會社
 古尾谷猪太郎君 北海道廳留新土木事務所
 山 田 潔君 樺太廳交通部鉄道課

林 濱 煥君 基礎炭礦會社

東 秀 雄君 八幡製鐵所工務部土木課
 伊勢孝雄君 北京鐵路局工務處
 五十嵐寅榮君 南洋拓殖會社
 池田岸夫君 樺太廳交通部鉄道課
 一月正典君 /
 稻田植秀君 八幡製鐵所工務部設計課
 大熊 醇君 埼玉縣浦和土木事務所
 大場芳男君 株式會社鹿島組
 荻野 省君 神奈川縣廳土木部道路課
 茅花 實君 札幌治水事務所
 木下一夫君 土木建築業自營
 久保寺昇君 帝國土木會社

准 員 (入 會)

桑野佐四郎君 岐阜縣廳土木部道路課
 小 池 剛君 內務省下關土木出張所
 小林義武君 樺太廳交通部鉄道課
 佐々木正輝君 樺太廳交通部鉄道課
 設樂清晴君 山口縣廳土木課
 篠田大亮君 白石基礎工業會社
 新保長太郎君 札幌治水事務所
 鈴木愛二君 華北交通會社
 出水義治君 北陸物産會社
 中道惣助君 建設總署北京施工所
 中村竹次郎君 札幌治水事務所
 中村義信君 滿洲合成燃料會社

鍋島次男君 八幡製鐵所工務部土木課
 新家義雄君 內務省土木局第一技術課
 原 正君 樺太廳交通部土木課
 松井外喜夫君 朝鮮總督府鐵道局改良課
 宮下敬爲君 城東區役所土木課
 村上 勇君 札幌治水事務所
 安岡保吉君 北支那港務事務所
 山口次男君 京都市電氣局工務課
 山本昱全君 札幌治水事務所
 余 湖 廣君 白石基礎工業會社
 吉原道夫君 北海道余市築港事務所

岩田重光君 早稻田高工

学 生 員 (入 會)

伊藤貞藏君 新京工礦技術院

會 員 (転 格)

眞喜志康順君 大阪鐵道局工務部

佐藤正俊君 關東州廳土木部工務課

准 員 (転 格)

土 木 学 會 々 員 數

會 員	准 員	学生員	特別員	賛助員	合 計
3 230	4 834	1 114	85	21	8 784

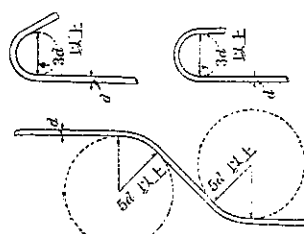
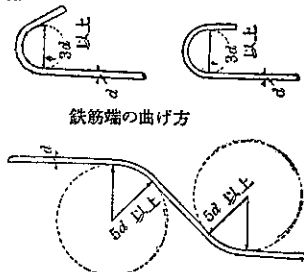
會 員 伊藤長右衛門君 昭和 14 年 8 月 30 日逝去せられたり、本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表せり

會 員 伊藤幸一君、照屋 安君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

准 員 深山義治君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

学生員 豊福良介君 今次支那事変に於て名譽の戦死を遂げらる、本會は恭しく哀悼の意を表す

正 誤 表
鉄筋コンクリート標準示方書改正案
(第 25 卷 9 號所載)

頁	條	行	誤	正
1	—	2	事實でありまが	事實でありますが
1	2	4	以上を通過	以上通過
2	3	4	鉄筋の容積を	鉄筋を
2	—	8	A_s	A_c
3	—	9	α	d
7	31	1	雑物のはを	雑物は之を
8	33	4	且つ	一旦
13	66		コンクリート	コンクリート
16	—	8	τ_{ca}	τ_{ca}
16	—	17	$\sqrt{\frac{A}{A'}}$	$\sqrt{\frac{A}{A'}}$
16	—	18	σ_{ca}'	σ_{ca}'
17	—	図-4	 <p style="text-align: center;">折曲鉄筋の曲げ方</p>	 <p style="text-align: center;">鉄筋端の曲げ方</p> <p style="text-align: center;">折曲鉄筋の曲げ方</p>
17	—	図-4	鉄筋端の曲げ方	鉄筋の曲げ方
20	—	2	0.8	0.8
20	—	12	$\frac{2}{3}w$	$\frac{2}{3}w_1$
20	—	19	第 85 條	第 88 條
20	88	8	$4.5b$	$4.5b$
20	—	9	$\frac{1}{2} = b_1$ を	$\frac{1}{2}$ に b_1 を
20	—	9	梁スパンの $\frac{1}{2}$	梁スパンの $\frac{1}{4}$
21	—	2	$\frac{1}{2} = b_1$ を	$\frac{1}{2}$ に b_1 を
21	89	3	とすべし	とすべし (図-9 参照)。
21	91	2	$\frac{S}{U_s}$	$\frac{S}{U_s}$
25	—	表-2	板の厚	板の厚さ
26	—	表-3	枠板の厚	枠板の厚さ
27	13	1	1/200 感度	1/200 の感度
29	23	3	少量	少量
30	32	1	硬練セメント	硬練りセメント
32	—	32	天気、候	天候
33	—	—	細骨材篩分析結果	細骨材篩分析結果、粗骨材篩分析結果 —と分けて上の表の下側に附ける

會 告

土木工学論文抄録第 2 輯配布に就て

曩に昭和 9 年 10 月本會は創立 20 周年を記念し土木工学論文抄録を刊行、廣く會員各位に贈呈したのでありますが、茲に再び創立 25 周年を迎へるに當り、其の後 5 ヶ年間の論文の抄録を追補せる土木工学論文抄録第 2 輯を編纂全會員に無料配布致すことと致しました。右御通知申し上げます。

土木工学論文抄録第 2 輯

刊行 總 定 昭和 14 年 10 月末
大 小 及 頁 數 菊 倍 判 約 380 頁

尙上記土木工学論文抄録は目下鋭意印刷中ではありますが、時局下印刷紙の統制のため發行部數を極度に制限するの不得已ことに相成りましたので、會費未納（昭和 14 年度）の方々に對しては誠に遺憾乍ら配布致し兼ねることに至るやも知れませんが豫め御承知を願ひます。

昭和 14 年 10 月

土 木 学 會

土木工学論文抄録編纂委員會委員

（昭和 13 年 6 月設置）

委員 長	久 保 田 敬 一								
委 員	阿 會 沼 均	青 木 楠 男	伊 藤 信	伊 藤 剛					
五十嵐 醇 三	○ 糸 川 一 郎	内 山 實	小 野 基 樹	大 岡 禮 三					
大 久 保 一 郎	太 田 尾 廣 治	風 間 武 雄	榎 木 寛 之 雄	草 間 中 登					
黒 澤 喜 代 治	末 森 猛 雄	鈴 木 雅 次	關 信 雄	田 中 誠 昇					
高 橋 三 郎	立 花 次 郎	谷 口 三 郎	當 山 道 三 勝	野 口 誠 昇					
廣 瀬 孝 六 郎	藤 井 眞 透	宮 本 武 之 輔	安 宅	山 口 誠 昇					
山 崎 匡 輔	吉 田 德 次 郎								

（○は幹事）

會 告

會長講演ラジオ放送に就て

本會創立25周年記念大會開催に當り10月17日午後6時25分より八田會長の講演をラジオを通じて全國へ放送することに通知致しましたが都合に依り10月18日午後7時40分より放送することに変更致しましたから御了承を願ひます。

土 木 学 會

會 告

創立 25 周年記念大會開催通知

来る 10 月 18 日より 3 日間に亙り本會創立 25 周年記念大會を次の通り(次第明細書別紙)開催致します。奮つて御來會を希望致します。尙 17 日(火曜日)午後 6 時 25 分より八田會長の講演「戦争と土木」をラヂオを通じて全國へ放送することになりましたから御期待下さい。

第 1 日 18 日(水曜日)記念晩餐會(會費 3 円 50 錢)

於上野精養軒 午後 4 時 30 分受付開始

同 5 時 餘興開始

同 6 時 宴會開始

第 2 日 19 日(木曜日)講演會(會費不要)

於帝國鐵道協會 午前 8 時 50 分開會

見學會(會費不要)

見學場所 鐵道省大宮工場, 大宮公園

集合場所 午後 2 時大宮驛前(東北本線)

第 3 日 20 日(金曜日)講演會(會費不要)

於帝國鐵道協會 午前 9 時開會

見學會(會費不要)

見學場所 東京港及第 3 臺場, 滿鉄埠頭, 旭硝子工場,

キリンビール工場

集合場所 午後 1 時 濱松町恩賜公園内(省線濱松町驛下車)

荒天の場合は中止

— 裏 面 注 意 —

注 意

- (1) 御來會申込は **10 月 12 日**までに本會に到達する様御申出で下さい。
- (2) 御來會の方には當日會場受附にて參加章及講演前刷等を御渡し致します。
- (3) 講演會當日晝食を召上る方の爲(申込者に限り)帝國鐵道協會食堂に食事の用意を致しますから要, 不要を必ず御申込下さい。
- (4) 晝食料 (**60 錢**)は當日會場受附にて食券と引換に頂きます。
- (5) 晚餐會費 (**3 円 50 錢**)は當日會場受付にて頂きます。

社 團 土 木 学 會
法 人

創立25周年記念大會次第書

社 團 土 木 学 會
法 人

第 1 日 記 念 晚 餐 會

記念晚餐會次第

期 日 昭和 14 年 10 月 18 日 (水曜日)
 會 場 於上野精養軒
 會 費 金 3 円 50 錢
 受付開始 (午後 4 時 30 分)
 餘興開始 (午後 5 時)
 餘 興 (1) 講談 大島伯鶴
 (2) 奇術 李 彩
 宴 會 (午後 6 時) 宴會中會員の卓上演説

第 2 日 講 演 會 及 見 学 會

講 演 會 次 第

期 日 昭和 14 年 10 月 19 日 (木曜日)
 會 場 於帝國鐵道協會 (丸ノ内 3 の 4)
 開 會 (午前 8 時 50 分)
 開會之辭 (午前 9 時) 講演會委員長 工学博士 草間 偉君
 講演開始 (午前 9 時 10 分)

演 題 及 講 演 者 並 に 講 演 時 間

講 演 時 間	演 題	講 演 者
9. 10—9. 24	接觸応力の一問題 (引張られた平板中の円形ボルトの問題) (第 2 報)	會員 工学士 最上 武雄君
9. 25—9. 30	架構の振動に関する研究	〃 工学士 岡本 舜三君
9. 40—9. 54	コンクリート堰堤施工中に於ける内部温度の上昇状況 と本邦産セメントの強度水和熱比に就て	〃 理学士 高田 昭君
9. 55—10. 09	コンクリート振動機の性能に就て	〃 工学士 内山 實君
10. 10—10. 24	ビルディング基礎並に地下室工事に潜函工法を応用せる 實例に就て	〃 工学士 高木 進君
10 分 休 憩		

講演時間	演 題	講 演 者
10. 35—10. 49	上海新都市計費建設事業に就て	會員 工学士 櫻井英記君
10. 50—11. 04	關門國道隧道に就て	〃 工学士 加藤伴平君
11. 05—11. 19	大阪地方の鉄道改良計畫に就て	〃 工学士 立花次郎君
11. 20—11. 34	國有鉄道に於ける軌條に就て	〃 工学博士 堀越一三君
11. 35—11. 49	伊東線に就て	〃 工学士 今井 潔君
11. 50—12. 04	眞那板隧道の切擴に就て	〃 工学士 市川順市君

◎講演時間が短い爲、質疑応答は書面に據ることに致しましたから御了承を願ひます

見 学 會 次 第

期 日 昭和 14 年 10 月 19 日 (木曜日)

集 合 午後 2 時 大宮驛前 (東北本線)

見学場所 鉄道省大宮工場, 大宮公園

行 程 大宮驛前より自動車にて鉄道省大宮工場及大宮公園の諸施設を見学し休憩
後大宮驛に到り解散とす

會 費 不 要

◎晝食は便宜當日の講演會場たる帝國鉄道協會食堂に (申込者に限り) 用意してありますから本會發行の食券で召上り下さい (食事費 60 錢)

第 3 日 講 演 會 及 見 学 會

講 演 會 次 第

期 日 昭和 14 年 10 月 20 日 (金曜日)

會 場 於帝國鉄道協會 (丸ノ内 3 の 4)

講演開始 (午前 9 時)

演 題 及 講 演 者 並 に 講 演 時 間

講演時間	演 題	講 演 者
9. 00— 9. 14	勝鬨橋に就て	會員 工学士 安宅 勝君
9. 15— 9. 29	第一只見川橋梁の架設	准員 工学士 大石重成君
9. 30— 9. 44	熔接鉄道橋に就て	會員 工学士 稻葉權兵衛君
9. 45— 9. 59	段落ち個所に於ける流体運動	〃 工学士 大坪喜久太郎君
10. 00—10. 14	利根川下流部に於ける河狀並に水理の特異性	〃 工学士 富永正義君
10. 15—10. 29	未 定	〃 工学士 安藝 皎一君
10 分 休 憩		

講演時間	演 題	講 演 者
10. 30—10. 44	電力國家管理に於ける水力開發に就て	會員 工学士 高橋三郎君
10. 45—10. 59	水壘堰堤工事に就て	〃 工学士 久保田 豊君
11. 00—11. 14	淨化下水を利用したる一給水計畫に就て	〃 工学士 板倉 誠君
11. 15—11. 29	緩速式砂濾過法の濾過速度に就て	〃 工学士 廣瀬孝六郎君
11. 30—11. 44	東京港の沿革に就て	〃 工学士 森田三郎君
11. 45—11. 59	航空測量と線路選定	〃 工学士 渡邊寛治君

◎講演時間が短い爲、質疑応答は書面に據ることに致しましたから御了承を願ひます

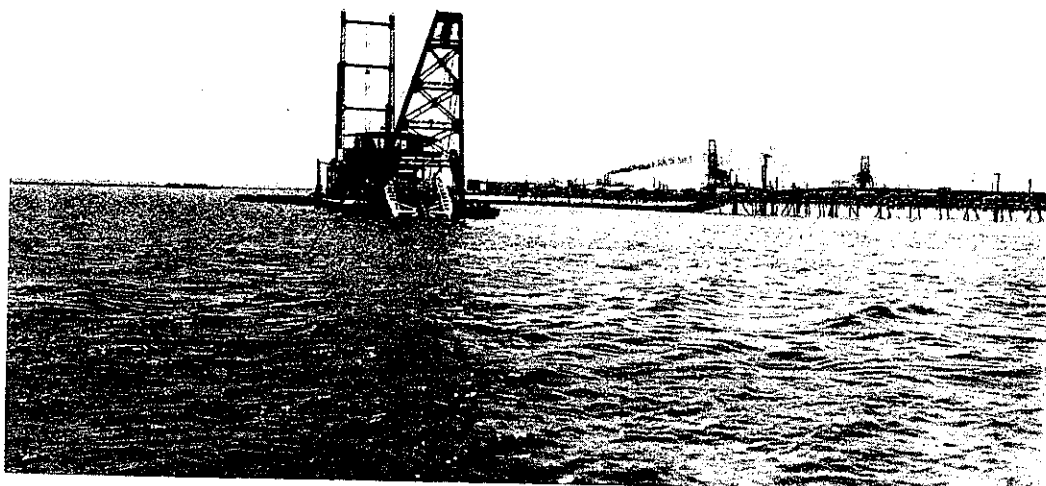
見 学 會 次 第

期 日 昭和 14 年 10 月 20 日（金曜日）荒天の場合は中止
 集 合 濱松町恩賜公園内 午後 1 時（省線濱松町驛下車）
 見学場所 東京築港及第 3 臺場，満鉄埠頭，旭硝子工場，キリンビール工場
 行 程 芝浦岸壁よりランチに乗船東京築港を見学し第 3 臺場の上陸，同所見学休憩，再び乗船満鉄埠頭，旭硝子工場，キリンビール工場を見学解散とす
 會 費 不 要

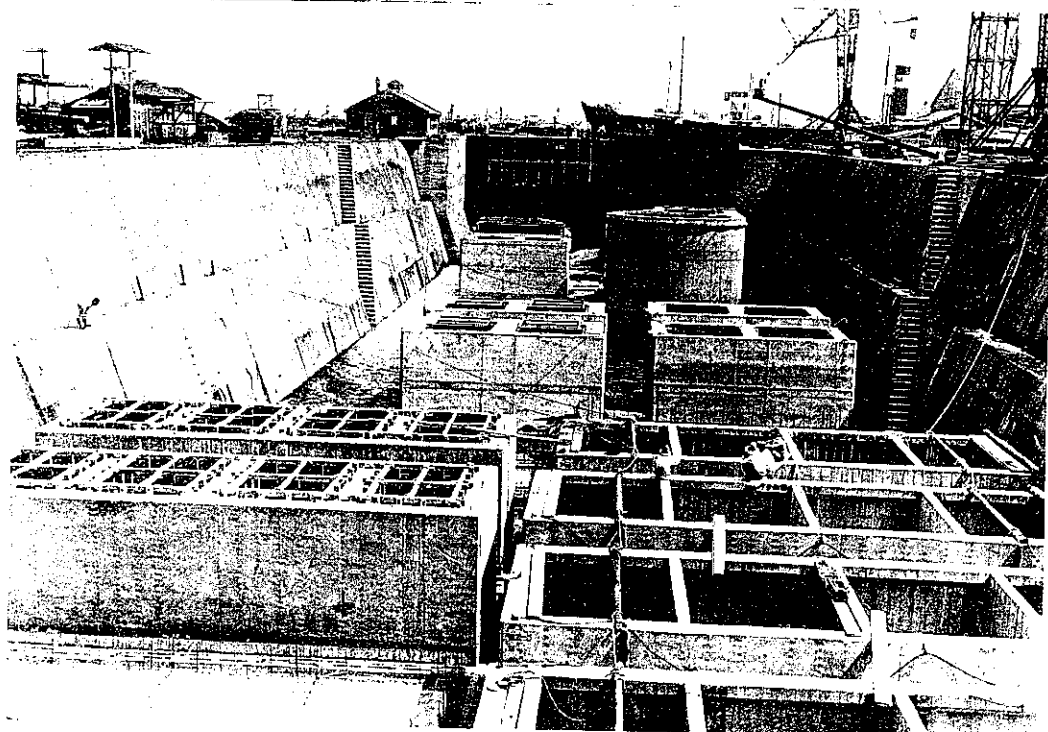
◎晝食は便宜當日の講演會場たる帝國鐵道協會食堂に（申込者に限り）用意してありますから本會發行の食券で召上り下さい（食事費 60 錢）

京濱工業地帯造成工事

神奈川県施工(時報欄参照)
第一區埋立中のポンプ式浚渫船



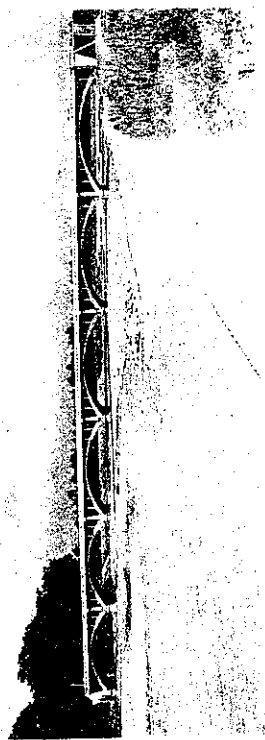
内務省横浜港修築事務所乾船渠内に於ける防波堤用ケーソン製作状況



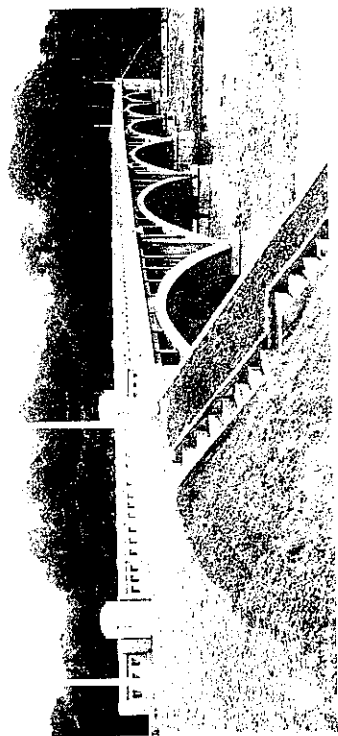
竣功せる東秋留橋(東京府下)

(時報欄参照)

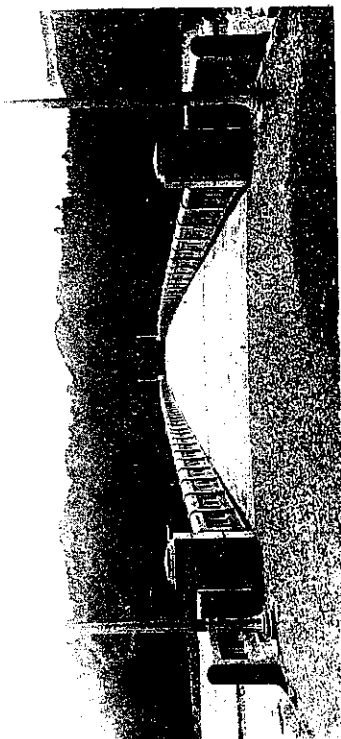
右岸上流側よりの全景



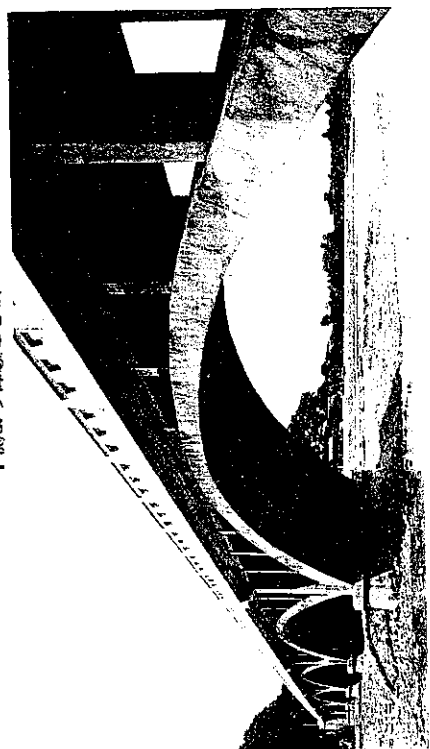
右岸下流側よりの全景



正面図



下側より仰観せる拱



寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
 2. 頁數 頁數は本會の原稿用紙 180 枚（本會誌 30 頁）以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
 3. 文体 文体は文意的口語体とす。本文に重要な關係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
 4. 書体 横書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば n と v , u と v , r と v , a と α , r と γ , d と δ , その他 C と c , K と k , O と o 等頭字と小字とを判然たらしむる事。
 5. 數字名數 數字は 3 桁毎に間隔をあげる事名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。
例へば
35 錢（三十五錢）、13.56 円（十三円五十六錢）、1~4 時間（一時間乃至四時間）、
88326 t（八萬八千三百二十六噸）、昭. 14. 1. 1.（昭和十四年一月一日）、
m（米）、 m^3 （立方米）、kg（斤）、83.4 尺（八丈三尺四寸）
 6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し（本會制定用語は本會發行の土木工學用語集参照）。
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
 7. 図表 (1) 図表は図-1、表-1 等と書き図表題を記すこと。
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
(3) 図面はその儘縮寫し得る様にトレーシングペーパー、オイルペーパー、トレーシングクロス等とすること。
(4) 図表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。
(5) 方眼紙は青野のものを用ひ（黄色、赤色の野は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
(6) 図表の文字數、字は特に大きく書かれ度し、縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し。
(7) 図表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
 8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
 9. 其他 (1) 論說報告は邦文に限る。
(2) 講演及論說報告には必ず英文表題及邦文要旨並に著者の職名勤務所名を添附され度し。
- 附記 (1) 論說報告、彙報、時報、抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。
(2) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には別刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に応じます。

図書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、自7月21日 至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時、
自1月4日至7月20日

但し 日曜及祭日は休み

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 寸法径 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す)



(實物大)

會員転居転勤の場合の御注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下さる様御願致します。

會費納付に付き御注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1月~6月)	第 2 期分 (7月~12月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月
納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等、振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄に爲替その他の方法に依り御送金相成度し。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下され度し。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に発行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。
発行後相當日數經過しての申越は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

既刊會誌殘部内譯

(* は残部有るものを示す)

卷	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
6	—	—	*	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	—	*	*	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	1.00
18	—	—	—	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	1.00
19	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	—	*	1.00
20	—	—	*	—	—	—	*	—	*	—	—	—	—	1.00
21	—	—	*	*	*	—	*	—	*	*	*	*	*	1.00
22	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	*	—	*	—	—	*	*	*	*	—	—	1.00
24	—	*	*	*	—	—	—	—	*	*	*	—	*	1.00
25	—	*	*	*	—	—	—	*	—	*	—	—	*	1.00
第 20 卷第 12 號 (創立 20 周年記念號)..... 1.50														
第 21 卷第 7 號 (會誌索引付)..... 1.30														
震害調査報告書 (1, 2, 3)..... 18.00														
鉄筋コンクリート標準示方書 同 上 解 説]..... 1.00														
土木工學論文抄録..... 3.50														
土木工學會誌索引 (第 1 卷第 1 號~第 20 卷第 12 號)..... 0.50														
土木工學用語集..... 2.50 (送料別)														

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄に其の旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1回1頁	35円	1回半頁	20円
指定廣告	{裏表紙3面對 向及廣告初頁}	1回1頁	40円	
		色アート	1回1頁	60円

- 指定廣告は凡て1年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の1割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

昭和14年9月25日印刷 昭和14年10月1日發行 (定價金1円)

編輯兼發行者 東京市牛込區南町33番地
中 村 孫 一
印刷者 東京市神田區美土代町16番地
島 連 太 郎
印刷所 東京市神田區美土代町16番地
三 秀 舍

東京市麴町區丸ノ内3丁目6番地

發 行 所 社 團 土 木 学 會
法 人

電 話 丸ノ内(23) 3945番, 振替口座東京16828番

DOBOKU-GAKKAI-SI

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXV, NO. 10, OCTOBER 1939.

CONTENTS

	Page
Proceedings of the Society	77
Papers	
On the Dam Construction Work of Miura Reservoir. <i>By Tyūzō Mori, C. E., Member</i>	
<i>By Yoshiko Yamaguti, Member.</i>	1157
On the Stress Calculation of Vierendeel Truss. <i>By Sigeru Ono, C. E., Member.</i>	1173
Calculation Method of Rail Stress and Strain. <i>By Kazuyosi Ono, C. E., Member.</i>	1181
Notes on Matters of Interest	1215
Abstracts of Selected Articles	1229
Current Notes	1257
Engineering Literatures	1265
Patent News	1273
New Publications	1275

OFFICE

No. 6, 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.

昭和十四年九月二十五日印刷
昭和十四年十月一日發行
（每月一週一日發行）
土木學會誌
第十號